

(海外・国内) インターンシップ報告書

2015 年 3 月 24 日提出

氏名	和田 雄治
所属	人獣共通感染症リサーチセンター 分子病態・診断部門
学年	DC 1
活動先名	WHO Western Pacific Regional Office
期間 ① (出発日―帰札日) ② (インターンシップ 実施開始日―終了日)	2015 年 03 月 07 日-03 月 11 日

帰国後 2 週間以内に提出してください (厳守) A4 用紙 4 枚以内

・活動目的及びインターンシップ先を選択した理由

私は、海外インターンシップの受け入れ先として、感染症対策に従事する国際機関を希望している。その理由は、現在博士課程で実施している感染症に対する研究の成果がどのように還元されているか、また感染症対策においては、どのような研究が求められているのかを学ぶ事で、自身の研究テーマの意義をより深く理解でき、国際社会に還元できる研究を実施する上で重要な視点を得る事ができると考えるからである。また、博士課程の 4 年間の内、国際機関において 1~2 ヶ月の期間をインターンシップとして従事する事は、卒業後のキャリアを考える上での重要な知見が得られると共に、非常に有意義な経験となる事が期待される。

現在、自分が希望する海外インターンシップの受け入れ先として、人獣共通感染症リサーチセンター 危機分析・対応室の磯田准教授を介して、WHO Western Pacific Regional Office (WPRO) と交渉して頂いている。現在までに 2 名のリーディングプログラム生が海外インターンシップ制度を利用して WPRO にインターンシップとして従事した実績から、WPRO でのインターンシップの受け入れは、実現を期待する事ができる。

以上の状況を踏まえて、国際機関における感染症対策の取り組みを学ぶ事ができる事、自分の海外インターンシップを考慮する際に、該当組織での職務及び現地での生活体験が重要な参考となる事から、今回のプレインターンシップへの参加を希望した。

・ 活動内容・成果（2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい）

背景：

WPRO は WHO が定義する西太平洋地域を管轄する地域事務所であり、フィリピン共和国の首都であるマニラに設置されている。管轄地域は、北及び西はモンゴル及び中国まで、南はニュージーランドまで、東はフランス領ポリネシアまでと広く、総人口は約 18 億人（全世界の 4 分の 1 以上）にも上る（Figure 1）。

WPRO 管轄地域は、地理的に、台風や地震等の自然災害等が多発する地域である。各国の政治経済的な発展度合いは多様であり、状況が不安定な国では内紛の発生や衛生環境の整備不足による食料の汚染が問題となっている。更に、多くの国が亜熱帯から熱帯気候であり、衛生環境が整備されていない国が多いことから、感染症の流行が多発しており、甚大な被害を及ぼしている。これらの災害に迅速且つ適切に対応する為に、WPRO では専門部門として Division of Health Security and Emergencies（DSE）を設立している（Figure 2）。

活動内容：

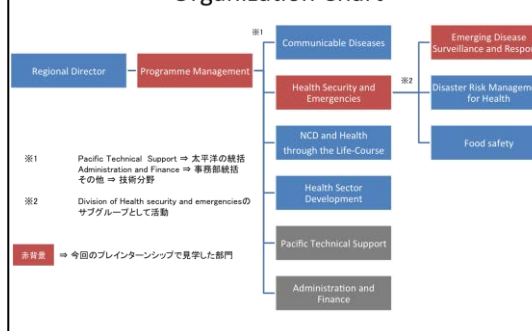
本プレインターンシップでは、DSE のサブグループとして新興・再興感染症対策に取り組む Emerging Disease Surveillance and Response（ESR）のチームの 1 つである surveillance チームの活動を主に見学した。surveillance チームの活動は、現地時間午前 6 時頃より始まる。午前 6 時から午前 7 時の間に、ソフトウェアやウェブサイト（GPHIN、Disease Outbreak News 等）を用いて、管轄地域内における感染症の発生や健康被害に関する報告の中から重要と思われる報告の選抜・収集を行い、選抜・収集された報告は、午前 7 時より surveillance チームで行うプレミーティングで報告される。更に、プレミーティングで DSE 全体に報告する必要があると判断された事柄については、DSE 全体ミーティングが開催される午前 8 時までに資料を簡潔にまとめて作成し、発表する。DSE 全体ミーティングで何らかの対応が必要とされた事柄については、各機関（WHO 本部、WPRO 地域事務所等）とテレビ電話を用いて会議を行い、今後の対応について話し合いが行われる。

訪問 1 日目はプレミーティング及び DSE 全体ミーティングにおいて重要性の高い

Figure 1. The countries and areas of Western Pacific Region



Figure 2. WHO Western Pacific Regional Office Organization Chart



報告がなかった為、どちらも 15 分程で終了した。その後の空いた時間を利用して、情報収集のポイントやツールの使い方等を実践形式で指導して頂いた。訪問 2 日目は人における H7N9 インフルエンザの発症報告について、DSE ミーティングで主な議題として取り上げられた。DSE ミーティング終了後は、我々は参加できなかったが、各関係機関とテレビ電話による会議が行われた模様である。

訪問 1 日目の午後は、DSE 部長の Ailan Li 先生に DSE の背景や目的について、また、ESR 部長の Chin-Kei Lee 先生に ESR の背景や目的について貴重なお話を頂いた。訪問 2 日目の午後は、ESR の Laboratory チームに所属する Frank Konings 先生に Laboratory チームの役割、各国研究所との関係の構築、各国の研究所の評価や教育等の具体的な仕事内容についてお話を頂いた。続いて、Programme management の部長である葛西健先生にお時間を頂き、昼食をご一緒させて頂くと共に、リスクアセスメントの概念等についてお話を頂いた。最後に、葛西先生にご教授頂いた内容をふまえ、ESR が開催する SFTSV のリスクアセスメントに参加した。

活動成果：

今回訪問した際は、ESR の surveillance チームは 5 名という少人数であり、午前 6 時から情報の収集に当たるチームはわずか 3 名であった。その情報収集に当たる 3 名の中には、本学リーディングプログラムよりインターンシップ中の直亨則さん（DC3、人獣共通感染症リサーチセンター [国際疫学部門](#)所属）も含まれていた。訪問当時、直さんのインターンシップは 6 週目（全 8 週間）であり、要所でサポートを受けながらも、基本的には 1 人で種々の業務に取り組んでおり、ESR チームの一員としての指導、インターンシップ生という立場から御助言や感想を聞く機会も有った。実際にリーディングプログラムの海外インターンシップ制度を利用して国際機関で活動中の先輩にお話を伺えた事は、自身の海外インターンシップの受入先や目的・目標を考える上で非常に有意義であった。

WPRO で働く先生方にお時間を頂き、それぞれの視点からお話を頂けた事は、WPRO の仕事内容や物事に取り組む際の視点を理解する上で、大きな助けとなった。中でも、葛西先生にはリスクアセスメントについて、身近な例えを用いて説明して頂き、非常に参考になった。また Frank Konings 先生の発展途上国の研究所との関係性強化に関するお話は、研究する立場とは異なる政治的な視点や教育的な視点から研究所を捉えており、研究や研究所に対する新たな視点を学ぶ事ができた。このように、様々な先生方にお話を頂けた事は、本プレインターンシップにおいて大きな成果であった。

SFTSV のリスクアセスメントに参加する事により、感染症のリスクを客観的に評価する手法の一端を学ぶ事ができた。また、リスクアセスメントを行う上で必要な疫

学情報やウイルス性状等の研究分野に求められている事柄について学ぶ事が出来た。

・ 今後の研究、学生生活、キャリアパスにどのようにプラスになったか

感染症のリスクアセスメントやリスクマネジメントを行う ESR サーベイランスチームの活動に参加する事で、感染症のコントロールに取り組む際の感染症研究の役割の一端を学ぶ事ができた。また、今後の研究方針を考える上で重要な、国際機関に求められている研究という新たな視点を獲得する事ができた。

以前より、卒業後のキャリアパスを考えて WPRO でのインターンシップを希望していたが、本プレインターンシップにより、その希望はより一層強くなった。

・ 後輩へのアドバイス

WPRO でのプレインターンシップに参加する機会があるならば、是非とも参加すべきである。それは、普段の研究生活では考える事が困難な視点から様々な災害に取り組む姿勢や戦略を学ぶ事ができ、自身の研究内容についてより深く理解する為にも、また、卒業後のキャリアパスを考える上でも、非常に良い経験を得る事ができるからである。

指導教員確認欄	指導教員所属・職・氏名
	人獣共通感染症リサーチセンター 分子病態・診断部門・ 教授・ 澤 洋文 印

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

※2 インターンシップ先の担当者が活動内容を証明した文書（署名入り）を提出して下さい。

※3 本報告書はリーディングプログラムキャリアパス委員会で内容を確認します。その後、教務委員会で単位認定を受けることになります。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp